

資料

ミヤマクワガタの雌雄モザイク型

高橋克之

群馬県立自然史博物館: 〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1

Gynandromorphic specimen of *Lucanus maculifemoratus*

TAKAHASHI Katsuyuki

Gunma Museum of Natural History: 1674-1, Kamikuroiwa, Tomioka, Gunma, 370-2345

キーワード: ミヤマクワガタ・雌雄モザイク型

Key Words: *Lucanus maculifemoratus*, Gynandromorph

ミヤマクワガタの雌雄モザイク個体を入手したので報告する。この標本は2003年に木暮伸浩氏が群馬県富岡市蕨で採集したものを所有、2007年に当館に寄贈されたものである。

右側は褐色を帯び、左側は黒色が強い。右前翅は左前翅よりも1mmほど長い。

右側の大顎(長さ11.0mm)は先端部が下方に傾いた状態で乾燥・固定している。内歯の第1歯は発達しており小歯も確認できる。左側は短く(長さ4.6mm)内歯は小歯と思われるものがある。頭部は右側が大きく複眼の位置は前方にあり、複眼前方が突出して鋭く尖っているのに対し、左側の複眼は中央やや後方に位置しており、前方に突出した部分はなく全体に丸みを帯びている。また頭部後方の耳状突起

は右側には見られるが、左側には見られない。前胸背板の側縁について右側は後方に小突起が見られるもののほぼ真っ直ぐであるのに対して左側は中央部を中心として丸みを帯びた形状をしている。後方と前胸部の形状には雌の特徴が現れている印象を受ける。腿節、脛節の長さには左右での差はない。黄白色毛は右側の耳状突起上面、側面および前胸背面の側部に認められる。さらに中胸および後胸腹板には密生しており、雄の特徴のように見られる。以上のように右側に雄の特徴(体長42.8mm)が現れ、左側に雌の特徴(体長38.9mm)が現れている。

本標本は触角、後胸、腹部、左後肢以外の付節は欠損している。そのため交尾器の判別はできなかった。



雌雄モザイク型のミヤマクワガタ。左;実大, 中;頭部背面拡大, 右;頭部腹面拡大

